

全国学力・学習状況調査を 実施するための委託事業

文部科学省初等中等教育局

平成26年3月18日



文部科学省

全国学力・学習状況調査

調査の概要

1 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・以上の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年：約2万校、約113万人

中学校第3学年：約1万校、約109万人

3 調査内容

①教科に関する調査（小学校：国語A、国語B、算数A、算数B 中学校：国語A、国語B、数学A、数学B）

児童生徒の思考力・表現力・判断力を測るため、記述式を重視

平成25年度形式別問題数	小学校	中学校
選択式（選択肢で解答を選ぶ問題）	22	48（マークシート式）
短答式（数文字で解答する問題）	30	35
記述式（文章を用いて解答する問題）	8	10
合計	60	93

※A問題：主として「知識」に関する問題

B問題：主として「活用」に関する問題

※24年度は「理科」を追加。

②児童生徒質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

（例）国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、読書時間、勉強時間の状況 など

③学校質問紙調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

（例）学力向上や学習の定着に向けた取組、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況 など

一般的な模擬試験と比べて特異と考えられる主な例

1. 高い機密性が求められること

事前に漏洩しないよう調査問題などを保管

採点・集計作業におけるより高い機密性の確保(学校別結果や個人別結果の漏洩防止)

輸送時の紛失・盗難防止のための確実な安全確保

2. 対象が大規模かつ一斉に行われること

多種類の調査資材を非常に多数の学校向けに、個別に梱包・発送・回収・開梱等を実施

学校などへの配送・回収・結果提供を同日に一斉に実施する必要

3. 通常と異なる高度な採点作業が必要であること

解答を○×等ではなく、多種類の解答類型に分類する特有の採点方式

受験者数が極めて多いことに加え、機械式採点ができない記述式問題を多く含む

採点に困難な点が多い一方で、採点期間が短い

採点ミス防止のための複層的チェックの徹底

4. 対象学校数が多い上に、児童生徒数の増減や調査資材不足などへの丁寧な対応が必要

5. 学校の行事等に合わせた本来の調査日以外の日実施も可能であり、そのための個別対応が必要

全国学力・学習状況調査事業の実施イメージ

文部科学省・国立教育政策研究所

委託業者：事業の全体統括・マネジメント

学校・教育委員会からの問合せ・依頼等について、
対応方針の相談、関係部署への指示等の要請（随時）

コールセンターの設置・運用（学校・教委等との連絡調整を一括して対応）

調査に必要な情報の整備・更新

調査資料の設計・作成

調査マニュアル、解答用紙、
段ボール等

調査マニュアル

学校質問紙

調査問題

資材の梱包・整理・管理

調査問題の梱包（例）

鑑文/配送物明細書

/問題冊子/児童生徒質問紙/解答用紙

/学級取りまとめ表/学校取りまとめ表

/解答用紙保管封筒/回収用段ボール箱

/点字・拡大文字・ルビ振り問題冊子 等

配慮資材は必要な学校のみ

小：約2万校、113万人

中：約1万校、109万人

梱包部数は
各学校の児
童生徒数に
応じて異なる

配送・回収

調査マニュアル配送

学級数に応じた
数を配送

学校質問紙配送

問題配送

前日に全学校に一斉配送

解答用紙回収

当日実施分は翌日に
一斉回収

解答用紙回収

後日実施分を複数回収

結果資料配送

採点

- ・採点会場設営
- ・採点者採用・研修
- ・採点システム構築
- ・採点基準の確認
- ・採点

品質確認

国立教育政策研究所

集計

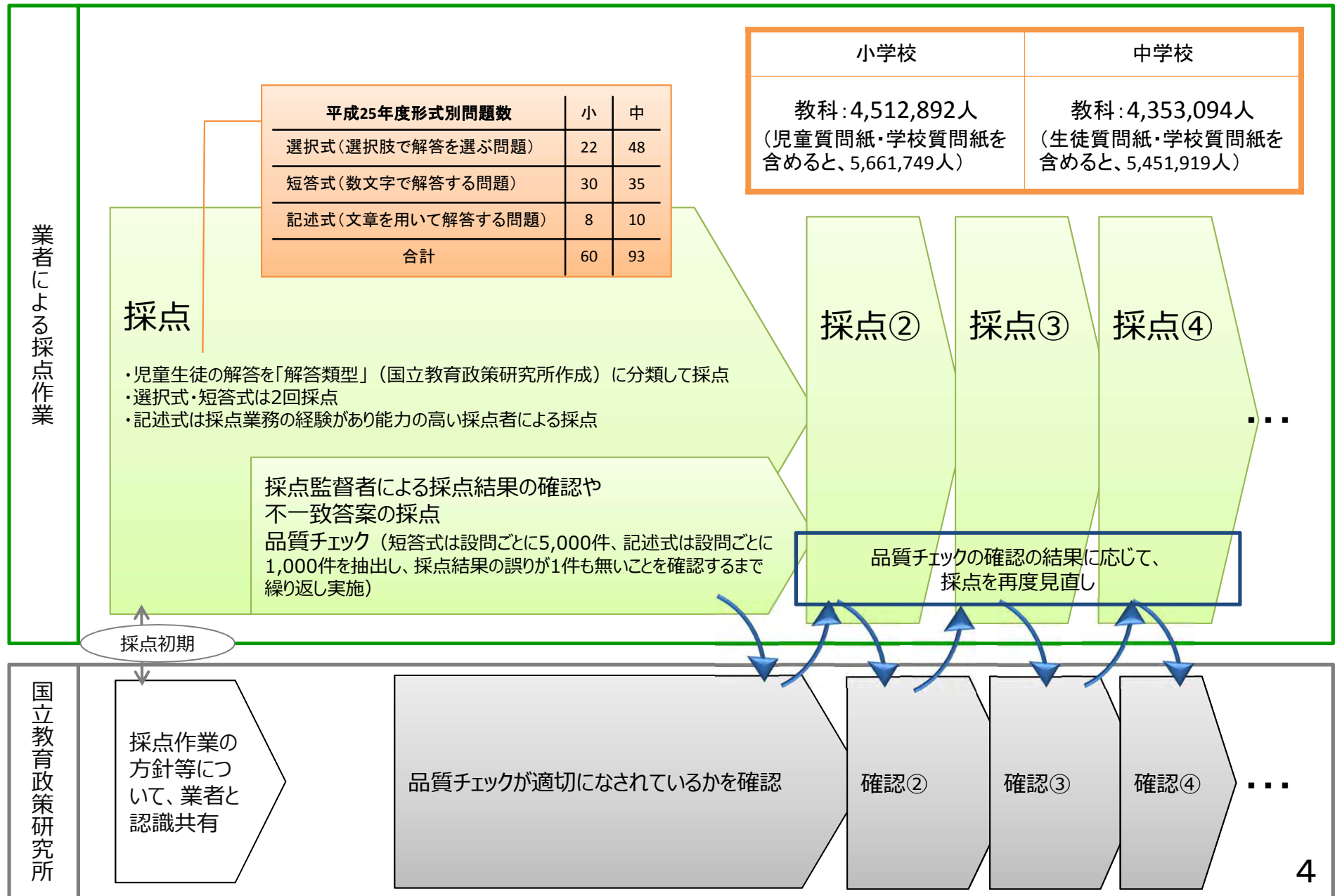
- ・集計システムの構築
- ・結果資料の設計

結果提供資料作成・
梱包

学校・
教育委員会等

全国学力・学習状況調査の採点作業の流れ

約2ヶ月間



次は、中学三年生の小川さんが興味をもった【新聞記事】と、それに関連して探した情報を小川さんがまとめた【資料】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

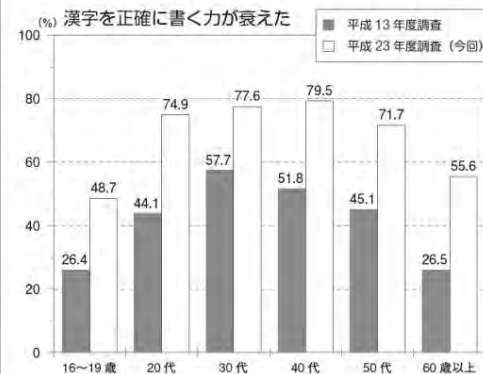
【新聞記事】

漢字、正確に書けますか？

「書く力が衰えた」66・5%

携帯電話や電子メールなどの普及によって「漢字を正確に書く力が衰えた」と感じる人が66・5%に上り、平成13年度調査時より25・2%増えたことが20日、文化庁の「平成23年度国語に関する世論調査」で分かった。

文化庁 国語に関する世論調査



調査では、携帯電話や電子メールなどの普及による情報交換手段の多様化が、日常生活に影響を与えている例として思い当たることを複数選択で質問。その結果「漢字を正確に書く力が衰えた」と回答した人が大幅に増えた。年齢別に見ると、20代・50代で7割台となっており、平成13年度には2割台だった16～19歳と60歳以上でも、それぞれ、5割弱と5割台半ばとなっている。

また、全ての年代で平成13年度調査の結果よりも今回の調査結果の割合の方が高くなっており、最も差の小さい30代で19・9%、最も差の大きい20代では、30・8%の差となっている。

このほか「手紙やはがきは余り利用しないようになった」が15・6%増の57・2%、「手で字を書くことが面倒くさく感じるようになった」が10・1%増の42・0%となった。

中学校の国語科教諭（47）は「似た形の文字の使い分けや同じ読み方をする語句の区別などについては、今後も注意して教え、情報機器と上手に付き合えるようにさせたい」と話した。

平成24年9月21日（金）「全国新聞」朝刊より

三 【新聞記事】を読んだり【資料】をまとめた小川さんは、間違えやすい漢字を取り上げ、学習する際の注意点やコツを中学一年生に説明することにしました。あなたならどのように説明しますか。〈間違えやすい漢字の例〉を次のA、Bから一つ選び

（どちらを選んでもかまいません。）、それを学習する際の注意点やコツをあとの条件1から条件3にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈間違えやすい漢字の例〉

A 拾・捨

B 厚・熱

- 条件1 選んだ〈間違えやすい漢字の例〉について、二つの漢字の共通点や相違点など漢字の特徴を取り上げて書くこと。
 条件2 条件1に応じて、二つの漢字を学習する際の注意点やコツを具体的に書くこと。
 条件3 七十文字以上、百十文字以内で書くこと。

出題の趣旨

漢字の特徴を捉えて、自分の考えを具体的に書くことができるかどうかをみる。

正答例

・ A 「拾」と「捨」は、同じてへんの漢字でつくりも似ていますが、つくりの一部が「一」か「土」かの違いがあります。だから、その部分の字形の違いに注意しながら、二つの漢字を並べて書いて覚えると間違えずに使い分けられると思います。（110字）

※ 各設問の正答の条件、他の解答例などについては、「Ⅲ 調査問題の解説」の「解答類型」等に記載してありますので、採点や学習指導の改善等に当たってはそちらも御参照ください。

全国学力・学習状況調査 解答(回答)用紙 ⑤ 国語B

② 三

例	便	利	な	生	活	を	描	い	て	い	る	よ	う	で
「	一	日	に	一	つ	や	二	つ	は	、	た	い	て	い
故	障	を	お	こ	し	て	「	修	理	に	出	す	と	い
う	不	便	な	現	象	を	描	い	て	い	る	点	が	、
未	来	の	社	会	に	対	し	て	作	者	が	警	告	し
て	い	る	よ	う	で	面	白	い	と	感	じ	ま	し	た。

③

一	②	③	④
二	①	③	④

三 へ間違えやすい漢字の例

① A B

←選んだへ間違えやすい漢字の例へに○を付けなさい。

例	「	拾	」	と	「	捨	」	は	、	同	じ	て	へん
の	漢	字	で	つ	く	り	も	似	て	い	ま	す	が
つ	く	り	の	一	部	が	「	一	」	か	「	土	」
の	違	い	が	あ	り	ま	す	。	だ	か	ら	、	そ
部	分	の	字	形	の	違	い	に	注	意	し	な	が
二	つ	の	漢	字	を	並	べ	て	書	い	て	覚	え
と	間	違	え	ず	に	使	い	分	け	ら	れ	る	と
い	ま	す	。										思

国語B ウラ

解答例はオモテにもあります。

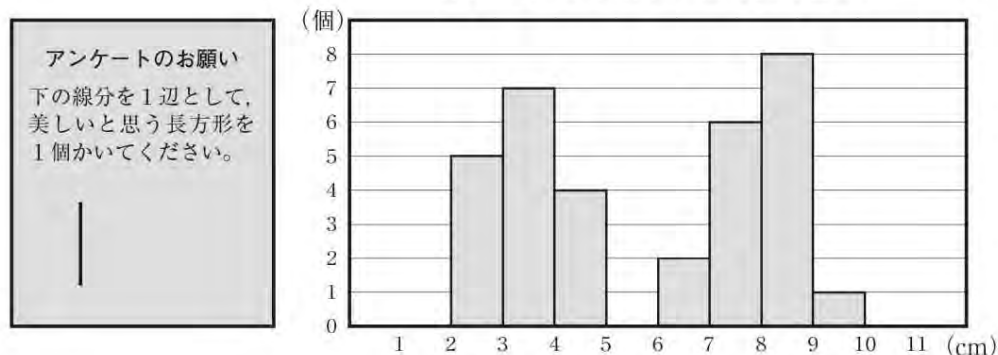
問題番号	解答類型	正答
③	三 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① AとBのいずれか一つの〈間違えやすい漢字の例〉を選んで、その記号に○を付けている。 ② 選んだ〈間違えやすい漢字の例〉について、二つの漢字の共通点や相違点など漢字の特徴を適切に取り上げて書いている。 ③ 条件②に応じて、二つの漢字を学習する際の注意点やコツを具体的に書いている。 ④ 七十文字以上、百十文字以内で書いている。 (正答例) ・A 「拾」と「捨」は、同じてへんの漢字でつくりも似ていますが、つくりの一部が「一」か「土」かの違いがあります。だから、その部分の字形の違いに注意しながら、二つの漢字を並べて書いて覚えると間違えずに使い分けられると思います。(110字) ・A 「拾」と「捨」は、「拾」は「しゅう」、「捨」は「しゃ」のように読みが違う。この二つの漢字を学習する際には、「拾得物」、「四捨五入」のように言葉の思い浮かべ、読みと意味と一緒に覚えるのがコツだ。(97字) ・B どちらも「あつい」と読むので、「厚い本を読む」(厚さ)、「熱いお茶を飲む」(温度)といったような例文を作って、意味の違いをはっきりさせて覚えましょう。(76字) ・B 「厚」と「熱」は、訓読みは同じだが、意味の異なる漢字である。二つの漢字を間違えずに使うためには、それぞれの漢字を使った熟語を辞書で複数調べ、意味を確認しながら学習するとよい。(88字)	
	I 条件①、②、③、④を満たして解答しているもの なお、次のものも正答とする。 ・ 条件②、③について、二つの漢字以外も取り上げているもの(例示の下線部は関係箇所)	◎

問題番号	解答類型	正答
③	三 (例) ・A 「拾」と「捨」は、つくりの一部が「一」か「土」かの違いがあります。だから、その部分の字形の違いに注意しながら、二つの漢字を並べて書いて覚えるのがコツです。「徒」と「従」なども異なる部分に注意しましょう。(102字) ・B 「厚」と「熱」は、訓読みは同じだが、意味の異なる漢字である。この二つの漢字を間違えずに使うためには、辞書で「厚紙」、「熱湯」などの熟語を調べ、熟語を書いて学習するのがよい。他に「暑」もあり、「猛暑」などで覚えるとよい。(110字)	
	2 条件①、②、③を満たし、条件④を満たさないで解答しているもの	
	3 条件①、②、④を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの (例1) ・A 「拾」と「捨」は、同じてへんの漢字で字形が似ていますが、つくりの違いがあります。「拾」は「合」、「捨」は「舍」を使っています。このように、漢字は意味が違うので、その意味に注意して書き分けるのがコツです。(102字) * 取り上げている共通点や相違点に応じた注意点やコツではない。	
	(例2) ・B 「厚」と「熱」は、どちらも「あつい」と読むところが共通している。他にも「あつい」と読む漢字にはどのようなものがあるのか、辞書を使って調べたい。 * 注意点やコツが書かれていない。(72字)	
	4 条件①、③、④を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの (例1) ・A 「拾」は「すてる」、「捨」は「ひろう」と読むことから分かるように、意味が異なる漢字です。二つの漢字を学習する際には、それぞれの漢字を使った熟語を作って、意味とともに覚えることが大切です。(95字) * 漢字の読み方を間違えている。	
	(例2) ・B 「熱」は、あついと読み、温度を表すときに使う。これらの漢字を学習する際には、意味の違いに注意して熟語を作ったり例文を作ったりすることが大切だ。 * 一方の漢字の特徴のみを書いている。(72字)	
	9 上記以外の解答	
	0 無解答	

- 5 麻衣さんと小春さんは、学級の生徒がどのような長方形を美しいと思うかを調べることにしました。そこで、下のような、長さ5 cmの線分がかかれたアンケート用紙を学級の生徒33人に配り、それを1辺とする長方形をかいてもらいました。

図1は、集計した結果をまとめたものです。このヒストグラムから、例えば、横の辺の長さが2 cm以上3 cm未満である長方形が5個かかれていたことがわかります。

図1 長方形の分布（横の辺の長さ）

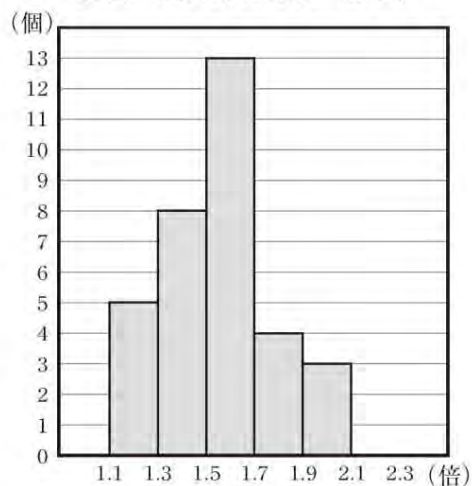


- (2) 麻衣さんは、小春さんの長方形を横にしてみると、自分の長方形と同じ形に見えんと思いました。

そこで、集計したすべての長方形について、長い辺の長さが短い辺の長さの何倍かを求めて、図2のヒストグラムにまとめ直しました。

このようにまとめ直すと、学級の生徒が美しいと思う長方形について、新たにどのようなことがわかりますか。わかることを、図2のヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。

図2 長方形の分布（割合）



出題の趣旨

資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明することができるかどうかをみる。

正答例

図2のヒストグラムでは、1.5倍以上1.7倍未満の階級の度数がすべての階級の中で最も大きく、しかもその度数が飛び抜けているため、学級の多くの生徒が美しいと思う長方形は、長い辺の長さが短い辺の長さの1.5倍以上1.7倍未満のものであることがわかる。

数学B ウラ

解答欄はオモテにもあります。

4

証明

(1)

(例)

$\triangle ABP$ と $\triangle CDQ$ において、
仮定より、

$$BP = DQ \quad \cdots \cdots ①$$

平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、

$$AB = CD \quad \cdots \cdots ②$$

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、

$$AB \parallel CD$$

平行線の錯角は等しいから、

$$\angle ABP = \angle CDQ \quad \cdots \cdots ③$$

①, ②, ③より、

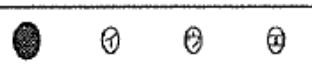
2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、

$$\triangle ABP \equiv \triangle CDQ$$

合同な図形の対応する辺の長さは等しいから、

$$AP = CQ$$

(2)



5

(1)

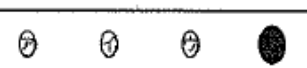
3 cm以上 4 cm未満

説明

(2)

(例) 図2のヒストグラムでは、1.5倍以上1.7倍未満の階級の度数がすべての階級の中で最も大きく、しかもその度数が飛び抜けているため、学級の多くの生徒が美しいと思う長方形は、長い辺の長さが短い辺の長さの1.5倍から1.7倍のものであることがわかる。

(3)

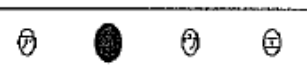


6

(1)

12 個

(2)



説明

(3)

(例) 正三角形の辺ごとに頂点以外の基石を囲んでいるので、1つのままとまりの個数は $(n-2)$ 個である。同じままとまりが3つあるので、このままとまりで数えた基石の個数は $3(n-2)$ 個になる。このとき、各頂点の基石を数えていないので、基石全部の個数は、 $3(n-2)$ 個より3個多い。

したがって、基石全部の個数を求める式は、 $3(n-2) + 3$ になる。

全国学力・学習状況調査 解答(回答)用紙 ③ 数学B

※ 各設問の正答の条件、他の解答例などについては、「Ⅲ 調査問題の解説は、その「解答類型」等に記載していただきます。採点や学習指導の改善等に当たっては、その

問題番号	解 答 類 型	正 答
5	(2) (正答の条件) 図2のヒストグラムから新たにわかる特徴に着目し、次の(a), (b)を記述しているもの。 (a) 「学級の生徒が美しいと思う長方形は」や「学級の生徒が美しいと思う長方形についてわかる図2のヒストグラムの特徴は」などの主部（前提あるいは根拠に当たる部分）。 (b) 「短い辺の長さに対する長い辺の長さの割合がだいたいひとまとまりになるものである」や「1.5倍以上1.7倍未満の階級の度数が、すべての階級の中で最も大きいことである」などの述部（結論に当たる部分）。 ~~~~~ (正答例) 例1 図2のヒストグラムでは、1.5倍以上1.7倍未満の階級の度数がすべての階級の中で最も大きく、しかもその度数が飛び抜けているため、学級の多くの生徒が美しいと思う長方形は、長い辺の長さが短い辺の長さの1.5倍以上1.7倍未満のものであることがわかる。（解答類型1） 例2 学級の生徒が美しいと思う長方形は、その短い辺の長さに対する長い辺の長さの割合がだいたいひとまとまりになるものである。（解答類型1） 例3 学級の生徒が美しいと思う長方形についてわかる図2のヒストグラムの特徴は、1.5倍以上1.7倍未満の階級の度数が、すべての階級の中で最も大きいことである。（解答類型3）	
1	図2のヒストグラムの分布、または最頻値に着目し、学級の生徒が美しいと思う長方形に関してわかることについて、(a), (b)を記述しているもの。 例1 集めた長方形は、2つのまとまりだったものが、短い辺の長さに対する長い辺の長さの割合でみると1つのまとまりになっている。 例2 美しいと思う長方形の短い辺に対する長い辺の割合は、1.5倍以上1.7倍未満のものが多い。	◎
2	図2のヒストグラムの分布、または最頻値に着目し、学級の生徒が美しいと思う長方形に関してわかることについて、(b)の記述が十分でなく、(a)を記述しているもの。 例1 学級の生徒がかいた長方形は、同じ種類であった。 例2 集めた長方形は、同じようなものが多い。	○

問題番号	解 答 類 型	正 答
5	(2) 図2のヒストグラムの分布、または最頻値に着目し、その特徴について、(a), (b)を記述しているもの。 3 例1 図2のヒストグラムの特徴は、1つの山のような形になったことである。 例2 図2の特徴は、1.5倍～1.7倍の階級の度数が、すべての階級の中で最も大きいことである。 ~~~~~ 図2のヒストグラムの分布、または最頻値に着目し、その特徴について、(b)の記述が十分でなく、(a)を記述しているもの。 4 例1 ヒストグラムの特徴は、山のような形になったことである。 例2 図2では、1.5以上1.7未満の度数が多い。 ~~~~~ 上記1, 3について、分布と最頻値以外の特徴に着目して記述しているもの。 5 例1 学級の生徒がかいた長方形には、1.1倍未満はない。 例2 特徴は、短い辺の長さに対する長い辺の長さの割合の中央値が、1.5以上1.7未満の階級に入っていることである。 ~~~~~ 上記2, 4について、分布と最頻値以外の特徴に着目して記述しているもの。（図2のヒストグラムから新たにわかることではないことを記述しているものを含む。） 6 例1 集めた長方形は、1.5倍以上の階級の度数が多い。 例2 学級の生徒がかいた長方形の中には、正方形はない。 ~~~~~ (b)のみを記述しているもの。 7 例1 辺の比が1つのまとまりになっている。 例2 1.5倍以上1.7倍未満が一番多い。 ~~~~~ 学級の生徒が美しいと思う長方形に関してわかることや図2のヒストグラムの特徴に着目しているが、(a)の記述がなく(b)の記述が十分でなかったり、(a), または(b)の記述に誤りがあったりするもの。 8 例1 山のような形になっている。 例2 集めた長方形は、縦長より横長の方が多い。 例3 長方形は、大きさが同じようなものが多い。 9 上記以外の解答 0 無解答	◎ ○ ◎ ○ ○

全国学力・学習状況調査と大学入試センター試験の比較

(平成25年度)

全国学力・学習状況調査※		試験名	大学入試センター試験 (本試験)															
小学校	中学校																	
全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、 <u>学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て</u> 、さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。		目的	大学に入学を志願する者の高等学校段階における <u>基礎的な学習の達成の程度</u> を判定する															
20,624箇所	10,317箇所	実施会場	707箇所															
1,128,326人(児童数)	1,088,515人(生徒数)	実施(受験)者数	542,943人															
2教科4種類 (3年に一度、3教科5種類)		実施科目数	6教科29科目から 必要に応じて選択															
記述式を重視		回答方式	マークシート式															
<table><tr><td>平成25年度形式別問題数</td><td>小</td><td>中</td></tr><tr><td>選択式(選択肢で解答を選ぶ問題)</td><td>22</td><td>48(マークシート式)</td></tr><tr><td>短答式(数文字で解答する問題)</td><td>30</td><td>35</td></tr><tr><td>記述式(文章を用いて解答する問題)</td><td>8</td><td>10</td></tr><tr><td>合計</td><td>60</td><td>93</td></tr></table>				平成25年度形式別問題数	小	中	選択式(選択肢で解答を選ぶ問題)	22	48(マークシート式)	短答式(数文字で解答する問題)	30	35	記述式(文章を用いて解答する問題)	8	10	合計	60	93
平成25年度形式別問題数	小			中														
選択式(選択肢で解答を選ぶ問題)	22			48(マークシート式)														
短答式(数文字で解答する問題)	30			35														
記述式(文章を用いて解答する問題)	8	10																
合計	60	93																
教科:4,512,892人 (児童質問紙・学校質問紙を含めると、5,661,749人)																		
教科:4,353,094人 (生徒質問紙・学校質問紙を含めると、5,451,919人)																		
・ 通常の時間割内で平日に1日で実施 ・ 通常授業同様、各小中学校の教室で実施																		
		延べ採点人数	3,616,664人															
		実施体制等	・ 土日に2日間で実施 ・ 大学等を専用に貸し切り、専用の日程で実施															

※調査実施日以降の後日実施を含む

平成26年度全国学力・学習状況調査委託事業に応札しなかった理由について
(入札説明会参加企業のうち、応札しなかった企業からのヒアリング結果)

文部科学省初等中等教育局参事官付

◎A社

- ①事業規模が大きく、通常業務をこなしつつ、学力調査委託事業を遂行していくためには、新たな専門部署を設置するとともに、必要なヒトとモノを配置しなければならない。落札前から準備をするのはリスクが高く、また、落札後に確実に整えられるか考慮した場合、通常業務に影響が出ることは間違いないため。
- ②全国一斉調査という案件を過去実施したことがないため、経験を踏まえたリスクの書き出しやそれに対する事前対策が甘くなり、結果として全国に影響のあるトラブルにつながるのではないかと不安要素があったため。
- ③現場の混乱を避けるためには、できる限り現行の学力調査委託事業のやり方に沿うことが適当でないかと考えており、従来までの当社のやり方からシフトしなければならないケースも考えられ、調整の労力が莫大。

◎B社

- ①(既存業者と)金額面で張り合うのが難しいと判断したため。
- ②事業規模が大きく、事業規模の応じた採点会場やヒトの確保が難しいと判断したため。
- ③国家試験については請け負った実績があり、マークシートの対応は出来るが、記述式の対応が難しい。また、大規模な採点を行うためのシステムの構築が難しいと判断したため。

◎C社

- ①事業規模が大きく、必要な人員体制を確保するのは困難だと思ったため。

◎D社

- ①事業規模が大きく、社内の人員配置を考慮すると対応が難しいと判断したため。
- ②不慣れな業務であり、業務を確実に履行できるかリスクがあると判断したため。

※入札説明会に参加したが応札しなかった事業者の担当者に、社名については対外的に公表しない旨を前提として、平成25年10月頃に電話での聞き取りを実施した。

1. 参加資格要件について

本事業の一般競争入札における参加資格要件は、法令に定められた参加資格を有しない者、入札の公正性を害する者などを除き、参加資格に特段の制限は設けていない。

2. 契約手続き関係について

①入札公告期間の確保

公告期間については、事業開始当初より原則20日間以上を確保するようにしてきたところであったが、平成23年度準備事業以降より一層期間の確保に努めており、平成26年度事業については90日間を確保した。

H22準備	H22実施	H23準備	H23実施	H24	H25	H26
20日間	20日間	52日間	30日間	48日間	38日間	90日間

※平成24年度事業以降は国庫債務負担行為を活用し、準備事業と実施事業を一括にして契約

②国庫債務負担行為の活用

平成23年度事業まで、準備事業と実施事業を別々に分けて契約していたところ、平成22年に実施された行政事業レビュー公開プロセスにより、年度をまたいで一括で契約できるようにすべきという指摘を踏まえて、平成24年度事業より国庫債務負担行為を活用した一括契約を行うようにした。

③情報提供の推進

事業開始当初より、入札を検討している業者からの照会に応じた委託業務の内容等を情報提供してきたところだったが、平成23年度準備事業より、情報提供窓口の明確化し文部科学省HPによる周知を行い、積極的な情報提供を行った。

3. 評価基準（必須項目）について

必須項目については、着実に最低限必要な必須項目に限るように努めてきたところである。

H22準備	H23準備	H24（準備事業と実施事業一括実施）
41項目	22項目（19項目減）	33項目
H22実施	H23実施	
52項目	35項目（17項目減）	